ＮＯ．３１４

じゅんあい

平成２５（２０１３）年５月１日

古希を迎えて

兄と共に

「人生の年月は七十年程のものです。健(すこ)やかな人が八十年を数えても
得(え)るところは労苦(ろうく)と災(わざわ)いにすぎません。
瞬(またた)く間(ま)に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。」

（旧約聖書　詩編　90 篇）

古希を迎え、今までの７０年間生かして下さった神様に心より感謝しつつ、今までを振り返り改めて主の御名を褒めたたえたく思い、ペンを執った次第である。

私が生まれたのは１９４３年（昭和１８年）４月１５日茨城県北茨城市華川町小豆畑１３２４番地の農家。常磐線磯原駅から車で１０分程山手に走った所である。昔は歩いたりバスに乗ったりで随分時間がかかった。

この写真はたった一枚しかない赤ん坊の頃の自分で、５才上の兄との記念写真である。

静かな田園風景のもと、蛍が飛びセミが鳴き、さえずる小鳥のこだます鳴き声を聞きながら成長していった。夜には天より降り注ぐような星々が輝き、その光景は今でも忘れられない。高台にある家の庭からは太平洋を行きかう船を、さらに煙をはいて走る蒸気機関車を見ては遠い世界へと心は馳せるのであった。

華川小学校に入学した年、友らと桜の花びらを針にさして飾り物を作ったりもした。その後、中学校を出て、日立市にある日立一高へと入学。それがキリスト教とのふれあいをもたらすのであった。

高校３年の時、クリスチャンの友に導かれて大みか町にある教会へ。そこで造り主なる主イエス・キリストを身をもって体験し、まさに“わが生涯は改まりぬ”となった。それは昭和３７年１月１７日の出来事であった。さらに大学進学のため東京へ・・・。

主の御声が迫る。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。』

（新約聖書　マタイ　16 章）

「イエスは、『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』と言われた。」　（新約聖書　マタイ　4 章）

翌、昭和３８年４月東京中央教会から４名の献身者の一人として京都の神学校へと向かった。その中の一人は、やがて結婚する家内であるが、そのようになるなどとは考えるよしもなかった。
“ナザレ人なるイエスのために”の賛美に送られ、東京駅のプラットホームを離れ、列車は献身の心を抱く若者達を京都へと運ぶのであった。

神学生時代

自己放棄という最大の学課を学びつつ４年間の神学校での学びを終え、私は福井県春江、福井市等を経て開拓伝道のため札幌へと任命を受けた。
夜汽車で一路青森へと向かう旅は、悲壮感に満ちていた。青森と函館を結ぶ青函連絡船の“蛍の光”のメロディーは実に哀愁に満ち、涙ぐむ自分であった。しかし、函館から札幌へと向かう特急〔おおぞら〕の車窓から、まっ赤に燃える太陽が太平洋のかなたから力強く昇る光景を見た時、“ボーイズ・ビー・アンビシャス”（青年よ大志を抱け）のクラーク先生の叫びが心に迫って来た。希望で膨らむ胸を抱きつつ任地へと向かったあの日の光景は忘れられない。
札幌では六畳二間のアパートから始まり、北４０条東１２丁目に、土地が与えられ、牧師館、さらに教会堂が与えられる主の御手の業を見つつ、信徒の方々と毎週の礼拝そしてクリスマス祝会など、主にある歩みをしたのであった。
自分の骨をうずめてもよいと思わされた札幌から大阪府の豊中市、さらに現在に至っている金沢の地・・・。
そして３０年程前のこと、高山右近の心との触れ合いの境地へと導かれる主。
“せめて右近に１曲を！！”　がパンの奇跡のように数が増え、５千曲記念コンサート、そして１万、２万、３万さらにこの度は、４月２１日にホテル金沢で４万曲記念コンサートとなった。

今から２６年前（１９８７年）に殉愛キリスト教会を設立し新たな出発となり、自由な空気のもと多くの方々との交わりが開始された。

１０年前には右近の資料室“右近荘”が建てられて喜んでいた最中、悪性リンパ腫にかかり、緊急に浅ノ川総合病院へ入院。まさに試練到来であった。

しかし、その入院中に“霊峰めざして”の小著、さらに３千５百曲もの曲を主は与えて下さり、今は完治といってもよい状態にまで導かれ、

『ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。』（ヨハネ　３章）

の御言葉が迫ってくるのを否むことは出来ない。

茶室・右近庵での友との出会いと交流。講演に招かれての感動の語らいと出会い・・・。気がついたら私も７０才古希を迎えていた。

今日まで手を取り足を取り導いて下さった神様に、ただただ感謝あるのみである。

拙き賛美も初心にかえり一歩一歩の歩みをせねば・・・と思うばかりである。

「主よ、御もとに身を寄せます。信仰故祖国すら追われた右近の熱き祈りと叫びが、なぜかこだましてくる中、その心を抱きつつ殉教愛に燃やされ、残りの馳せ場を進みゆきたいと切望しつつペンを置く。

とこしえに恥に落とすことなく
恵みの御業によって助け、逃れさせてください。
あなたの耳をわたしに傾け、お救いください。
常に身を避けるための住まい、岩となり
わたしを救おうと定めてください。
あなたはわたしの大岩、わたしの砦。

わたしの神よ、あなたは逆らう者の手から
悪事を働く者、不法を働く者の手から
わたしを逃れさせてください。
　主よ、あなたはわたしの希望。
　主よ、わたしは若いときからあなたに依り頼み
　母の胎にあるときから　あなたに依りすがって来ました。
　あなたは母の腹から　わたし取り上げてくださいました。
　わたしは常にあなたを賛美します。
　多くの人はわたしに驚きます。
　あなたはわたしの避けどころ、
　わたしの砦。
　わたしの口は賛美に満ち
　絶えることなくあなたの
　輝きをたたえます。
老いの日にも見放さず
わたしに力が尽きても捨て去
らないでください。
敵がわたしのことを話し合い
わたしの命をうかがう者が共に謀り言っています

母と共に（２０１３・１１）

『神が彼を捨て去ったら、追い詰めて捕えよう。
　彼を助ける者はもういない』と。
　神よ、わたしを遠く離れないでください。
　わたしの神よ、今すぐわたしをお助けください。
　わたしが老いて白髪になっても
　神よ、どうか捨て去らないでください。
　御腕の業を、力強い御業を
　来るべき世代に語り伝えさせてください。
　　神よ、恵みの御業は高い天に広がっています。
　　あなたはすぐれた御業を行われました。
　　神よ、誰があなたに並びえましょう。

あなたは多くの災いと苦しみを　わたしに思い知らせられましたが
再び命を得させてくださるでしょう。
地の深い淵(ふち)から　再び引き上げてくださるでしょう。
ひるがえって、わたしを力づけ
すぐれて大いなるものとしてくださるでしょう。
わたしもまた、わたしの神よ
琴(こと)に合わせてあなたのまことに感謝をささげます。
　　イスラエルの聖なる方よ
　　わたしは竪琴(たてごと)に合わせてほめ歌をうたいます。
　　わたしの 唇(くちびる) は喜びの声をあげ
　　あなたが 贖(あがな) ってくださったこの 魂(たましい) は
　　あなたにほめ歌をうたいます。
　　わたしの舌(した)は絶えることなく　恵みの御業(みわざ)を歌います。

（詩編　71 篇）

四万曲記念コンサート（２０１３・４・２１）

殉愛キリスト教会　　牧師：山縣　實
〒920-0814　石川県金沢市鳴和町タ 210　Tel・Fax 076－251－2247
E-mail　: jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp
ＵＲＬ　: http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/